

“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”
 ～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和2年度子どもの体験活動・地域活動指導員研修会 ～今の時代に求められるかかわり方～															
期 日	令和3年1月20日（水）															
参加者	19名（オンラインで実施）															
日 程	<table><tr><th>時間</th><th>内容</th></tr><tr><td>13：15</td><td>【受付】</td></tr><tr><td>13：30</td><td>【開会行事】</td></tr><tr><td>13：35</td><td>【説明】「こんなかかわり方ってどうかな？」 福岡教育事務所 社会教育主事</td></tr><tr><td>13：50</td><td>【講話】「今の時代に求められるかかわり方」 講師 福岡教育事務所 人権・同和教育室 指導主事 齊藤 宏之</td></tr><tr><td>15：50</td><td>【閉会】</td></tr><tr><td>15：55</td><td></td></tr></table>		時間	内容	13：15	【受付】	13：30	【開会行事】	13：35	【説明】「こんなかかわり方ってどうかな？」 福岡教育事務所 社会教育主事	13：50	【講話】「今の時代に求められるかかわり方」 講師 福岡教育事務所 人権・同和教育室 指導主事 齊藤 宏之	15：50	【閉会】	15：55	
時間	内容															
13：15	【受付】															
13：30	【開会行事】															
13：35	【説明】「こんなかかわり方ってどうかな？」 福岡教育事務所 社会教育主事															
13：50	【講話】「今の時代に求められるかかわり方」 講師 福岡教育事務所 人権・同和教育室 指導主事 齊藤 宏之															
15：50	【閉会】															
15：55																
活動の 実際	前半は「今の時代に求められるかかわり方」と題して齊藤宏之指導主事から①子どもたちを指導するとは②新しい人権課題（LGBT・アンコンシャスバイアス）③実際に体験活動の場面で、指導者が気を付けることの3つについて講話を行いました。特に②に関して参加者からは「無意識で決めつけていることが日常の中でもよくある。発言する前に、心の中で呟くなど訓練していきたい。」といった感想がありました。指導者が今後子どもにかかわる中で、自分の言動や行動を振り返る機会になりました。  【講話】 福岡教育事務所 人権・同和教育室 指導主事 齊藤 宏之															

活動の 実際	【参加者の様子】 後半は、演習を行いました。「こんな時に、あなた自身はどんな声かけをしますか」という問いについて前半の講話と実際の体験活動の場面を結びつけて考えました。当日はオンラインでの実施だったため、考えたことを交流することはできませんでしたが、参加者の実践を振り返る機会になりました。 また、どのように体験と出合わせるかという内容にも触れ、「何のために」を意識する企画・立案の重要性について話されました。具体的には、体験活動との出合わせ方を少し工夫するだけで、子どもたちの意欲が変わるということを折り紙を使って紹介されました。参加者からは「演習を少し工夫することで、子供たちが考えを出し合ったりやコミュニケーションを深めたりすることができると分かり、今後の体験活動を企画する時に取り入れていきたい。」「子どもたちに何をつくるのか伝えずに活動させて、最後に目的を伝える方法は子供のワクワク感が高まると思う。」といった感想が見られました。 まとめとして齊藤宏之指導主事が、活動や場を少し工夫することでよりたくさん子どもたちが楽しく安全に活動できる。そのために、人権教育・啓発のさらなる充実に努めてほしいと話しました。
全体を 通して	事後アンケートには以下のような記述がありました。 ○人権について改めて学ぶことができました。 ○「～してあげる」の発言、ついつい言いがちです。発言の先にあるものを想像していかなければいけないと思いました。 ○改めて人権意識について勉強になりました。 ○人権課題の話は何回も聴くことで、それだけ重要な内容であることが認識できました。 ※コロナ禍で活動が十分にできない今だからこそ、参加者が子どもたちとのかかわり方について振り返る機会になったと思います。福岡教育事務所といたしましても、今後も管内市町に対して体験活動に係る支援や情報提供を行っていきたいと思います。